









議 長	副議長	局 長	次 長	係 長	係 員

行政視察報告書

令和4年11月28日

笠岡市議会議長 殿

(出張者)議員 大本 邦光  議員 栗尾 典子 
 議員 天野 喜一郎  議員 奥野 泰久 
 議員 藤井 義明  議員 真鍋 陽子 
 議員 森岡 聡子  議員 山本 聡 

下記のとおり行政視察を実施したので、その結果を報告します。

記

【1】 福岡県 糸島市議会

住 所	福岡県糸島市前原西1丁目1-1
電 話	092-332-2084
視察案件	国際村構想について コミュニティセンターについて
期 日	令和4年11月16日(水) 13時30分から15時30分
応 対 者	副議長 井上健作 氏 議会事務局長 大神哲広 氏 学研都市づくり課長 大島泰輔 氏 学研都市づくり課 大学連携推進係長 徳永真一 氏 コミュニティ推進課長 八尋孔兵 氏 コミュニティ推進課 課長補佐兼地域コミュニティ係長 小窪真奈美 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	糸島市役所
概 要	○糸島市議会 井上副議長 あいさつ ○笠岡市議会 大本委員長 あいさつ ○国際村構想について 平成22年1月1日に1市2町が合併し、現在の糸島市が誕生。 福岡県の西の端に位置し、人口は約10万人で平成28年度から社会増が自然減を上回り、現時点の人口は歴代最高人口を更新中である。 福岡市西区と糸島市にまたがる九州大学伊都キャンパスの移転が、開始し

たことをきっかけに、平成22年5月に糸島市と九州大学との連携協力協定を締結した。糸島市では、九州大学の活用を市の重要な戦略の一つとして捉え、年間約100件の連携・交流事業を実施し、糸島市と九州大学が有する資源の相互活用を推し進めている。

九州大学が糸島にやってきたことで、市内に、九大生、留学生、教職員が増え、九州大学が身近な存在になった一方、留学生等の住居や滞在施設の不足など、新たな課題も生じてきた。

こうした状況を踏まえ、留学生等の住居・宿泊施設、生活利便施設、文化・交流施設、研究・コンベンション施設等の立地導入に向けた必要事項を明らかにすることを目的とした、糸島市九州大学国際村構想を平成29年5月に策定した。また、国際村創設のための事業化には、産学官の緊密な連携を図る必要があったことから、九州大学と糸島市に、民間事業者を加え、地域の国際化に関する協定を締結した。

九州大学を中心とした学術研究都市の一翼を担う糸島市にとって、市の最大の特徴の1つであり、強みである九州大学と緊密に連携を取りながら、ヒト、モノ、カネ、コト、情報など多くの資源を取り込み、地域内で循環させ、将来にわたって持続可能な都市を構築する必要がある。

併せて、地域住民をはじめとした市民との交流促進、国際教育の強化などを進めることで、地域の国際化や糸島市の国際的な認知度の向上につながる事となり、その意義は大きい。

○コミュニティセンターについて

糸島市では、小学校区ごとに公民館を設置し、地域住民の学習活動や文化活動などに取り組んできたが、一方で、小学校区を単位とした住民主体のまちづくりや地域活動が活発になるにつれ、社会教育法に基づく利用規定では、多岐にわたる市民ニーズに応えられない状況が生じてきた。

このため、令和2年度より、社会教育機能を中心とした公民館から、様々なまちづくり活動が可能となるコミュニティセンターへ移行し、地域の拠点となる施設として再構築することで、校区単位でのまちづくりの更なる推進を目指すこととした。

【コミュニティセンター（平成2年4月～）】

根拠法令：地方自治法

糸島市まちづくり基本条例

管理規程：糸島市立コミュニティセンター条例 等

施設数：小学校区ごとに全15館

職員：センター長 1名、

センター員 2名

主な業務：まちづくり活動の支援

生涯学習事業の実施

館の管理運営

	<p>公民館からコミュニティセンターへの移行時期が、コロナ禍と重なったため、残念ながら、これまでのコミュニティセンターの活用状況は低調である。移行後の成果が出るのは、もう少し先になるが、今のところデメリットは感じていない。</p> <p>また、糸島市では、小学校区（全15）による地域の特性を生かした「校区まちづくり」を推進しており、各校区では、10年間の校区まちづくり計画（共創プラン）を策定し、独自の取り組みを行っている。</p> <p>各校区の取り組みに対して、市は、校区の持続性発展性があるもの、校区の課題解決につながるもの、魅力ある資源や人材を活用するものについて、補助金を交付し、財政的支援を行っている。</p> <p>補助金の限度額については、校区の規模を考慮し、均等割額（全校区一律50万円）と人口割額（50から70万円）を交付している。</p> <p>今後は、コミュニティセンターを核とした住民主体のまちづくりを推し進めることとしている。</p> <p>全体を通して、糸島市では非常にわかりやすい組織体・仕組み作りを行っていると感じた。今回説明をいただいた住民活動を支援する環境の整備は、本市においても課題の1つであり、研究・検討を重ねる必要があると考える。</p>
	○笠岡市議会 栗尾副委員長 あいさつ
	○議場見学
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

【2】 長崎県 五島市議会

住 所	長崎県五島市福江町1番1号
電 話	0959-72-7923
視察案件	地域づくり協働事業について
期 日	令和4年11月17日（木）13時30分から15時00分
応 対 者	議長 木口利光 氏 議会事務局長 山本 強 氏 議会事務局 久保源輝 氏 地域協働課 地域づくり協働班係長 川端博之 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	五島市役所
概 要	○五島市議会 木口議長 あいさつ ○笠岡市議会 大本委員長 あいさつ ○五島市概要 山本事務局長説明 ○まちづくり協働事業について 五島市は九州最西端に位置し、長崎港から西に約100kmにあり、人口は、R4年10月末現在で、35,130人。

昭和30年のピーク時に9万人を超えていた人口は、離島という地理的要因、高度経済成長期における若者の就職、高校卒業後の進学による流出などの影響で、減少の一途をたどっている。

過疎化と高齢化の進展や個人の価値観の多様化に伴い、住民同士のつながりが希薄化し、地域コミュニティ機能が弱まることを強く懸念し、対策として地域住民と行政が協働でまちづくりを推進する「地域の絆再生事業」を平成26年度からスタートした。

市内13の公民館単位に「まちづくり協議会」が設置され、人的支援、拠点等の支援、財政的支援など、様々な行政支援を行っている。

【人的支援】

各地区のまちづくり協議会では、市の職員である支所長、出張所長が協議会の事務局長を務めたり、支所の係長が事務局の役割を担うなど協議会の運営をサポートしている。

さらに、市が会計年度任用職員として任用している人材を「集落支援員」として全13地区を対象に一人ずつ配置しているのが特徴である。

【拠点等の支援】

13地区のまちづくり協議会の活動拠点として、市の支所、出張所の執務室を提供しており、各地区のそれぞれの執務室で集落支援員が日常業務を進めている。

まちづくり協議会の役員等が参集する会議も支所、出張所の会議室や公民館等で行われるケースが多い。

【財政支援（絆再生事業交付金）】

13地区交付金額は5千万円規模で、地区により140万円から550万円の交付金を交付している。

各地区においては、今後の人口減少、少子高齢化を見据えた活動が増えている。

一方で、集落支援員が注力して作った広報誌「ワガゴト」は、全世界帯に断続的に配布してきた経緯があるが、反応が今一つという印象であり、現在も協議会が地域に広く認知されているとは言い難い。

住民に「ワガゴト」として考えてもらうことが重要であり、定期的に人が集まるような仕組みをいかに構築していくかが、今後の大きなポイントとなっている。

我が笠岡市においても、まちづくり協議会が広く市民に認知されているとは言い難い状況にあり、これまでの取り組みや活動状況を踏まえた見直しが必要と考える。市民が「ワガゴト」として考え、誰もが気軽に参加できる仕組みづくり、取組方法についての検討が必要であると考える。

○議場見学

添付書類

視察資料 視察状況写真 名刺

【3】 長崎県 諫早市議会

住 所	長崎県諫早市東小路町7番1号
電 話	0957-22-2402
視察案件	諫早市美術・歴史館について
期 日	令和4年11月18日(金) 9時50分から11時35分
応 対 者	議会事務局 主任 平高伸一 氏 諫早市美術・歴史館館長 堀 輝広 氏 諫早市美術・歴史館副館長 坪内理子 氏
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	諫早市美術・歴史館
概 要	<p>○諫早市議会 林田議長 あいさつ(議会事務局代読)</p> <p>○諫早市美術・歴史館 堀館長 あいさつ</p> <p>○笠岡市議会 大本委員長 あいさつ</p> <p>○諫早市美術・歴史館について</p> <p>平成17年3月1日に1市5町が合併し、現在の諫早市が誕生。</p> <p>既存の郷土館の老朽化に加え、「諫早に常設展示できる美術館を」との文化団体からの強い要望により、美術館的機能と博物館的機能を併せ持つ、諫早市発の本格的ミュージアムとして、平成26年3月に開館。</p> <p>常設展示室のほか、ホール、企画展示室、研修室等を備える。</p> <p>基本理念は、「諫早まるごと博物館」で、館周辺の豊富な文化財や豊かな自然、図書館や公民館などの既存施設、市内各地の資料館などとの連携の拠点としての施設として位置付けている。</p> <p>ホールや企画展示室は長崎県美術展覧会をはじめ、市民作品の発表の場としても活用しており、文化の発展や地域の振興にも努めている。</p> <p>我が笠岡市においても、スペース等限りがあるが、来館者に本市の歴史・文化を知ってもらい、本市に愛着と親しみをもってもらえるきっかけとなるような郷土館にと強く感じた。</p> <p>○館内見学</p> <p>○笠岡市議会 栗尾副委員長 あいさつ</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺